

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 自給飼料生産基盤拡大緊急対策支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 畜産基盤係 電話番号：058-272-1111(内4140)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 15,600 千円 (前年度予算額：41,000 千円)
※R4.3月補正額

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	41,000	0	0	0	0	0	0	0	41,000
要求額	15,600	7,800	0	0	0	0	0	0	7,800
決定額	15,600	7,800	0	0	0	0	0	0	7,800

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和3年1月以降、とうもろこしを主とする輸入飼料の価格上昇に伴い、輸入が9割を占める配合飼料価格が高騰、現在も価格の上昇が続いており、畜産農家の経営に深刻な影響を及ぼしている。

配合飼料価格の高騰に対し、国はセーフティーネット基金(配合飼料価格安定制度)の運用をしており、令和3年度第1四半期以降、基金補てんを発動、影響を緩和しているが、制度上の仕組みから影響を全て緩和できず、生産者の負担が増加し続けている。

一方で、県内の自給飼料生産面積は、平成29年を境に減少傾向にあり、輸入飼料に頼らない自給飼料生産の拡大が必要である。

しかし、自給飼料生産に必要な機械設備費等は高額であり、導入について畜産農家等の負担は大きい。

そこで、自給飼料生産拡大を図るため、生産拡大に必要な機械導入及び施設整備について支援が必要となる。

(2) 事業内容

自給飼料生産面積を拡大する畜産農家等に対し、飼料作物の細断、収穫及び調整等に必要機械及び施設整備に要する経費の一部を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：1/3以内

輸入飼料高騰対策として、短期に重点的に実施する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	15,600	自給飼料生産面積の規模拡大を図るための飼料用施設整備及び機械導入等
合計	15,600	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ
無

(2) 後年度の財政負担
輸入飼料高騰対策として短期的に実施するものとする。

(3) 事業主体及びその妥当性
農業協同組合連合会、農業協同組合、公社、農業者が組織する団体 等

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	自給飼料生産基盤拡大緊急対策支援事業費補助金
補助事業者(団体)	農業協同組合連合会、(一社)岐阜県農畜産公社、農業協同組合、農事組合法人、農業者等の組織する団体等 (理由) 小規模畜産農家を事業の対象とするため。
補助事業の概要	(目的) 輸入飼料原料の価格高騰の影響を緩和することを目的に機械設備等にかかる負担軽減をし、自給飼料生産拡大を図る。 (内容) 自給飼料生産面積を拡大する畜産農家等に必要な機械導入及び施設整備に要する経費の一部を補助する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 補助率1/3以内 (理由) 輸入飼料高騰対策として期間限定で実施するものであるため、既存の施設設備等補助事業同等の補助率1/3とする。
補助効果	県内の自給飼料生産面積の拡大、増加
終期の設定	終期 令和6年度 国交付金(デジタル田園都市国家構想交付金)を活用するものであるため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 県内の自給飼料生産面積の拡大、増加を図る。
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
①飼料用米生産面積	2,271	3,712	3,496	3,604	2,300	161%
②稲WCS生産面積	205	252	303	350	207	122%

補助金交付実績 (単位:千円)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
			36,025		

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>
-------	---------------------------

指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

令和3年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	飼料収穫機等9台を導入した。
	指標① 目標： <u>2,300m²</u> 実績： <u>3,712m²</u> 達成率： <u>100%</u>
	指標② 目標： <u>207m²</u> 実績： <u>252m²</u> 達成率： <u>100%</u>

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	令和3年1月以降、配合飼料価格が高騰しており、当面下がる見込みもなく農家経営を圧迫している現状から、継続支援の必要性がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 新型コロナウイルスの影響により資材調達が困難の中、補助事業者が年度内完了できるよう事業の早期執行が求められる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 飼料高騰の状況を見ながら、短期的、重点的な取り組みとする。
--